

解熱鎮痛薬の使用上の注意

してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないこと
 - (1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと
(眠気があらわれることがある。)
4. 服用時は飲酒しないこと
5. 長期連用しないこと

相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談すること
 - (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
 - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
 - (3) 授乳中の人。
 - (4) 水痘(水ぼうそう)若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児(15歳未満)。
 - (5) 高齢者。
 - (6) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
 - (7) 薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - (8) 次の診断を受けた人。
心臓病、腎臓病、肝臓病、
胃・十二指腸潰瘍

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談すること

(1) 服用後、次の症状があらわれた場合

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消 化 器	悪心・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり、冷や汗、息苦しさ等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様の水ぶくれ等の激しい症状が、全身の皮膚、口や目の粘膜にあらわれる。
肝機能障害	全身のだるさ、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）等があらわれる。
ぜんそく	

(2) 5～6回服用しても症状がよくなりません

【用法及び用量に関する注意】

小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。

【保管及び取扱い上の注意】

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること。
- (2) 小児の手の届かない所に保管すること。
- (3) 他の容器に入れ替えないこと。（誤用の原因になったり品質が変わる。）
- (4) 配置期限の過ぎた製品は服用しないこと。

製造販売元 **寧薬化学工業株式会社**

奈良県大和高田市旭南町2-25

【問い合わせ】 電話番号：0745-22-4151

受付時間：9:00～16:00（土、日、祝日除く）

T-5-L

BR3828050620